

# ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さんのお役に立ちたい情報誌

## 2015年 新年のご挨拶



### 創立50周年

今年は、鈴鹿厚生病院創立 50 周年。大きな節目の一年となります。これもひとえに地域の皆さん・行政・関係者各位のお力添えと大変感謝いたしております。

### 今年の抱負

今後の国の施策としては、大きな流れとして在宅へ推進されていくでしょう。そこで ①救急 ②在宅 ③地域生活の支援が重要だと考えております。まず ①の救急についてですが、入院医療の質の向上や患者さんの特性に応じた病棟の機能分化を段階的に行ってきました。今年は、東3病棟（現社会復帰病

棟）を急性期の機能を持った病棟に転換する予定です。現在東1階が精神科救急病棟ですが、その救急対応をしなければならぬ精神症状を脱した患者さんを受け入れる病棟がありません。今までは、地域で急性な精神症状が出てしまった患者さんの要望に応え切れていなかったのですが、1つの病棟を療養から急性期へ機能を転換することで、より救急が受けやすくなります。また、②在宅③地域生活の支援については、在宅貢献の観点から、精神障がいをお持ちの方が、地域でいかに生活できるか、その点については、現状も訪問看護、アウトリーチ（訪問支援）等での見守りをしているのですが、



三重県厚生連  
鈴鹿厚生病院  
院長 西浦 眞琴

やはり社会では仕事をしなければ生活できません。これまでは企業と病院との間で、企業の労務管理面におけるメンタルサポート支援を行ってまいりました。これからは障がい者が就労するにあたって、障がい者はもとより、企業の労務管理者との間の橋渡しの役割を担う、地域生活を応援する部隊を作りたいと考えております。それがひいては患者さんの地域での自活につながっていくだろうと考えております。当院の理念でもある「ささえあいともに生きる」をモットーに、今年も精神科医療のあるべき姿を求め、邁進してまいります。